



いなざわ九条の会

〈2009年1月〉
発行
いなざわ九条の会事務局

いなざわ九条の会は2009年、発足4年目になりました。九条守れの市民の声は日増しに強くなっている気がします。わたしたちの活動をさらに前進させたいですね。今年もよろしくお願ひします。

会はこれまで、月例会を軸にうたごえ喫茶や記念集会などを計26回取り組んできました。案内チラシはそのつど、みなさんにお届けしていますが、会報の発行は3号でとどまっています。みなさんとの連絡網を密にするために、会報は欠かせません。いま、会報作りを手伝ってくれる人を探しています。「編集に携わってもいいよ」という方は、ぜひ、事務局まで連絡をください。お待ちしております。

今回は1年半ぶりの発行です。昨年末に取り組んだ「ジェームス三木の話と100人のコーラスをきこみゃあ」の3周年記念行事の報告と、2月の月例会を案内します。

いなざわ九条の会・結成3周年

「ジェームス三木の話と100人のコーラスをきこみゃあ」に630人

いなざわ九条の会が結成3周年を迎え、12月7日に稲沢市民会館大ホールで「ジェームス三木の話と100人のコーラスをきこみゃあ」の記念集会を開きました。集会には630人が参加し、憲法の朗読やなつかしい唱歌を聞いたり、脚本家ジェームス三木さんの講演に耳を傾けました。参加者からは「日本の憲法が、未来の世界への先進的な役割をするのだということがよく分かった」という感想が寄せられました。

集会は、市内の少年少女のグループ「カーニバル少年団」とその母親たちによる、憲法前文と第9条の朗読でオープニング・憲法前文と第9条の朗読はじまりました。小学生から高校生まで加わった22人の構成で、舞台の下手と上手に分かれて、一人一人が交互に音読しました。こどもたちは、文語調の難解な言葉にとまどいながらも、元気に読み上げました。



オープニング・憲法前文と第9条の朗読

続いて、市内在住の主婦、吉川優子さんの司会で、主催者を代表して、発起人の一人である祖父江町永張寺の遠島満宗住職があいさつしました。遠島さんは会的主旨や活動に、天国と地獄を話題にした説法を織り交ぜながら、2度と戦争をしないために九条を手離してはならないと話しました。



主催者挨拶・遠島満宗さん

「100人のコーラス」は、稲沢市や名古屋市などで活動する4つのコーラスグループ86人の混声合唱と、一般市民も加わって歌う2部構成でした。ジェームス三木作詞、きたがわてつ作曲の平和憲法をたたえる歌「わたしを褒めてください」を120人が熱唱して会場を盛り上げました。



「100人のコーラス」

ジェームス三木さんの講演のテーマは「憲法とわたし」。人間は歴史のバトンをつなぐランナーだ。核兵器や戦争を次の世代につないではいけない。憲法九条こそ大切で、戦争のない平和なバトンを引き継いでもらおうと話しました。また、新作映画の構想も紹介し、自衛隊は70



講演するジェームス三木さん

歳以上を採用条件としたらどうかと提案しました。訓練で健康になるし、お年寄りなら鉄砲の引き金を引こうにも手が震えて的に当たらないから、殺傷することもないと、会場を沸かせました。軽妙な語り口の中にも政治への風刺がいっぱい。時間の経過をわすれるほど楽しい行事で、予定を15分ほどオーバーして記念行事の幕が下りました。

3周年行事は、会員のみなさん一人ひとりの力で、成功できました。ありがとうございました。また、チケットの販売は935枚となり、会場で5万5372円のカンパをいただきました。重ねて御礼申し上げます。

感想を求めたアンケートは53人の皆さんから寄せられました。この会報を通じてその一部をご報告させていただきます。

寄せられた感想の一部を紹介します

・若者が声を出して憲法前文を読む。素敵でした。声を出して読む価値のある格調高い文ですね。改めて感じました。(54歳・女性)

・憲法とか第九条とか聞くだけで身構えてしまう人が周りには結構います。ごく自然に“親子で読む憲法”はとても好感が持てました。子どもに押し付けがましくなく、こういう場面が広がってほしいです。(60代・男性)

・ふるさとの四季はなつかしくて、思わず口ずさみました。「わたしを褒めてください」ははじめて耳にしましたが、良い歌ですね。本当にいまの憲法はすばらしいものなのですね。(55歳・女性)

・素敵な歌声でした。かなり高齢の方が多く、年齢的にみても美しい歌声で感心しました。(60代・女性)

〈裏面へつづく〉

<表面からつづく>

・楽しく聞かせていただきました。あとで加わった市民の方たちは男女同じぐらいの数ですてきでしたね。(60代・女性)

・なかなかよかった。各グループは練習が大変だったろうなと思った。(60代・女性)

・素敵なコーラスでなつかしいメロディ。口ずさみたくなるようで、リラックスできました。(60代・女性)

・みんな知っている歌でした。でも忘れていた歌でした。歌を忘れるとともに日本の四季の美しい情緒を忘れていました。歌声の心で、忘れていたものがよみがえってきました。ひるがえって、子ども(老人)の歌っている歌を考えると、こういった情緒のある歌はないように思います。(学校で習わないのでしょうか)。どの世代の人も共通して口ずさめる歌…もっと大切にしたいです。(70代・女性)

・選曲、歌声とともに素敵でした。市民参加の企画もよかったです。わたしを褒めてくださいますの歌詞に感動しました。(40代・男性)

・4つの合唱団による「ふるさとの四季」もさることながら、一般の市民参加の「わたしを褒めてください」は力強くよかった。さらにもう少し誰でも知っているやさしい歌を一曲、会場の方たちと全員で歌えたらもっと良かった。(60代・男性)

・楽しく聞くことができた。笑いの中に深く人間の生き方について考えさせるものがあった。(40代・女性)

・とりとめのないお話でありながら、笑いあり、人生の格言ありでよかった。(54歳・女性)

・とっても楽しいお話でした。そして、これから自分が何をすべきかを改めて考えてゆかなければいけないと思います。(55歳・女性)

・いろいろなたとえを入れて話してくれてよかった。自分の憲法を作ってみようかなと思いました。大事なことは短く言葉を選んで伝えてみようと思う=憲法九条を守るための行動を=(50代・女性)

・喜怒哀楽で楽しみを持てば生きていけると励まされました。実行します。憲法は約束ごとであるので守らなければならないのは納得しました。すばらしい憲法だから守ろう。(60代・女性)

・楽しい講演でした。九条についてもう少し強く出して欲しい気もしたが、飽きることなく聞けました。話が上手です。(60代・女性)

・自衛隊に70歳以上の方が入る意見に賛成。簡単に分かりやすく楽しく聞けました。(60代・女性)

・軽妙な語り口から始まり、言葉の伝達・情報の伝達と現代のわれわれの任務について語りかけられ、私たちが「この会場にきていない人々」に伝達することの大切さを再認識させられました。予想以上でした。(60代・女性)

・日本の憲法が未来の世界(戦争のない、国境線のない)への先進的な役割をするのだということがよく分かりました。100年生き、これからも国際貢献を。また、こどもに「生活」を残すか「人生」を残すか、死んだ後の自分がどう語られるのか…あらためて考え直したいテーマもたくさんいただきました。みなさん、良い感想を持たれたのではないかしら。(60代・男性)

2月・月例会(第18回)のご案内

日時 09年2月22日(日)午後2時~4時

場所 稲沢市民会館視聴覚室

参加費 300円

テーマ 「田母神論文と報道の問題点」

講演 大西五郎 <日本ジャーナリスト会議東海地区代表幹事、あいち九条の会世話人>



「わが国が侵略国家だったというのは濡れ衣である」などと、政府見解に反する歴史認識を示した懸賞論文で更迭された田母神俊雄・前航空幕僚長。いなざわ九条の会・09年2月例会は、この問題を取り上げます。新聞はこの問題をどう取り上げたか、一部の新聞を除いて、各紙とも文民統制への危機感をにじませました。また、田母神氏と同じ歴史観が自衛体内にひろがっているのかという懸念も提起されています。一方、国会の参考人質疑で、同氏は「ヤフーの投票で58%が私を支持している」とも発言しました。戦前の例を挙げるまでなく、軍の暴走は無視できません。

時あたかも、政府はアフリカの海賊対策と称して、ソマリアに海上自衛隊を派兵すると決めました。憲法九条で禁止する武器使用の条件は、あいまいにしたままです。文民統制を無視する田母神論文といい、憲法を軽んじる国や自衛隊から目が離せない状況になってきました。

こういった問題を新聞・テレビはどうとらえているのか。いなざわ九条の会ではおなじみの大西五郎元愛知大教授の話を聞きます。